



# バードライフ・インターナショナル 東京

BirdLife International Tokyo



# バードライフ・インターナショナル

## BirdLife International

---

バードライフ・インターナショナルは、1922年に英国で鳥類の研究と保全のために設立された世界で一番古い環境NGOです。現在は、英国ケンブリッジの本部と6か国に地域事務所を持ち、世界120か国のパートナー団体、約280万人のメンバーとともに環境保全活動に取り組んでいます。名誉総裁には、2004年より高円宮妃久子殿下にご就任いただいております。

鳥類の保全にはじまったバードライフの取り組みは、近年、鳥類を指標とした生息環境の保全など、より広い範囲の環境保全活動へと展開しています。2013年に新たに策定された2020年までの活動戦略では、「種の保全」「生息地の保全」「生態学的持続可能性の促進」「人々への働きかけ」を大きな4本の柱とし、各保全プログラムを進めています。

日本では、日本野鳥の会をパートナー団体とし、企業や団体等の支援のもと、日本をはじめアジア各国、アフリカ、南米などで環境保全活動に取り組んでいます。



# バードライフ東京の環境活動

種の保全  
Preventing Extinctions



©M Koshkin

重要生息環境  
Important Bird &  
Biodiversity Area



©D Zeller; RSPB

渡り鳥の保全  
Migratory Birds & Flyway



©Simay Gabor

海鳥と海洋保全  
Seabirds & Marine



©K Davidson

森林保全  
Forest Conservation



©Murray Cooper

企業と生物多様性  
Business & Biodiversity



©Duncan Brown



©Tomasz Cofta



©Tony Martin



©Ciro Albano



©Haribon Foundation

# 種の保全

## Species Conservation

バードライフ・インターナショナルは、長年にわたり鳥類の保全活動に従事しており、調査や分析結果は、世界で絶滅が危惧される鳥類のデータとして公表しています。

主な刊行物として、世界の地域別レッド・データブック、アジアの保全戦略をまとめたアジア版鳥類保全戦略、4年ごとの世界の絶滅危惧種チェックリストなどの作成を行っているほか、IUCNのレッド・リスト鳥類版へデータを提供しています。

また、絶滅が危惧される鳥類の保護活動（Preventing Extinctions Programme）や減少が続く普通種の保護（Common Birds Common Campaign）など、世界各地域のパートナー団体と連携し、保全活動を推進しています。

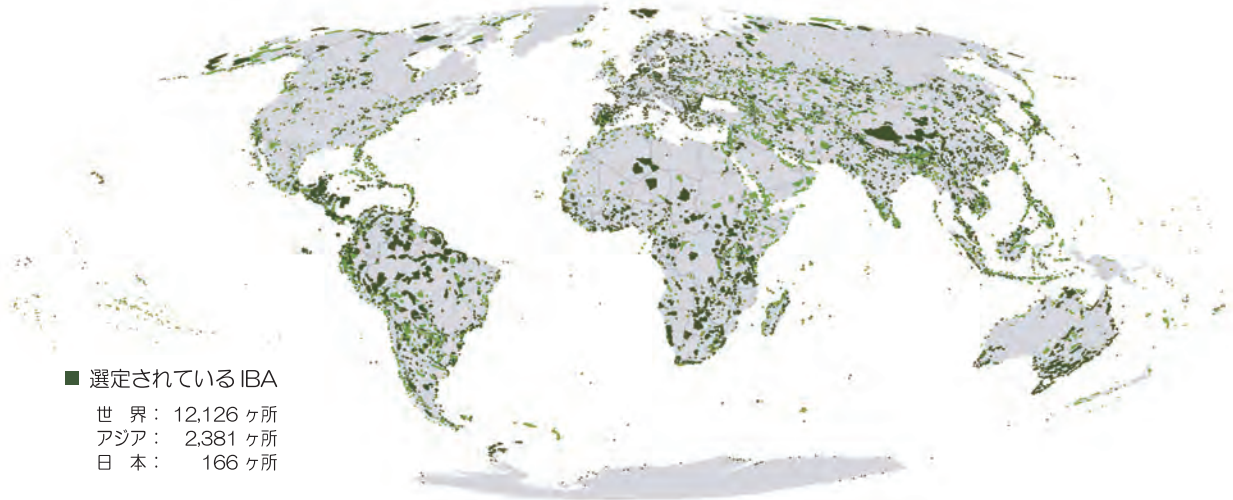
生息環境の保全や復元のほか、生態系サービスの価値を評価し、優先的保全地域を選定したり、土地の利用形態を検討する取り組みも進めています。

# 重要生息環境 (IBA)

## Important Bird & Biodiversity Area

IBAとは、鳥類を指標に選定された生物多様性の高い場所です。IBAの目的は、重要生息環境をネットワークでつなぐことにより、保全や持続的な管理を促進させることにあります。IBAの選定方法は1980年代にヨーロッパで開発され、種や分布、生息地などの世界共通の基準を用いて選定しています。

近年、海域でもマリンIBAの選定を進めるほか、特に生息環境の破壊や劣化の危機が高い地域を“IBAs in Danger”として選定し、保全活動を優先して行うべく取り組みを進めています。





# 渡り鳥の保全

## Migratory Birds & Flyway

渡り鳥は生息地の損失や狩猟などの脅威によって、近年、個体数が減少しており、その多くが地球規模で絶滅を危惧されています。渡り鳥は、繁殖、渡り、越冬のために特定の地域の森林や湿地等に集まる傾向があるため、渡りのルートにある各国が協力して生息地を保全する必要があります。

バードライフでは、渡り鳥にとって重要となる地域をIBA（重要生息環境）に指定し、それらをネットワークでつなぎ、生物多様性保全や持続的な利用に関する普及啓発、調査研究、情報交換等を促進しています。

また、国際的枠組みである東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップにもマネジメントコミティの一員として参加しており、この地域の渡り性水鳥の保全に取り組んでいます。

ツバメやツグミといった日本に飛来する一般的な渡り鳥などの保全への取り組みも今後の課題となっています。







©Steve Ebbert

# 海鳥と海洋

## Seabirds & Marine

鳥類の中でも、海鳥は急激にその数を減らしており、約330種の海鳥の3分の1が絶滅を危惧されています。海洋には国境はないため、グローバルな対策が求められています。

バードライフでは、混獲（海鳥を漁業の際に、誤って獲ってしまうこと）を避けるため、新しい漁具の開発や、漁業者への指導、漁船の監視員の派遣、各国政府への働きかけなど様々な活動を行っています。また、マリーンIBA（海の重要生息環境）の選定を通して、基礎資料を整備することにより、各国の海洋保護区の制定や保全政策に貢献、海洋と海鳥の保全を推進しています。



バードライフは、生物多様性保全、また気候変動対策のために、世界規模で熱帯雨林の保全に取り組んでいます。

Forests of Hopeプロジェクトでは、森林破壊の防止と復元をめざすとともに、活動に地元・周辺地域の人々が参加し、環境に配慮した持続可能な生活を促進する仕組みづくりを進めています。主なサイトは、インドネシア、ベトナム、フィリピン、マダガスカル、ブラジルなど全世界に広がっています。

また、熱帯雨林の保全活動の他にも、IBAサイト等での植林など、積極的に森林保全に携わっています。

# 熱帯雨林と森林保全

## Forest Conservation



# 企業と生物多様性

## Business & Biodiversity

生物多様性とそれを取り巻く生態系は、企業活動において重要な基盤であり、企業は、生態系から生み出される有形無形のサービスを楽しんでいます。企業にとって、生態系保全や生物多様性保全を行うことは、ビジネスを持続可能な形で継続していくために必要な取り組みです。

バードライフ東京では、企業と生物多様性に関するコンサルティング業務やセミナーなどを積極的に手掛けており、生物多様性に関する企業活動の評価や環境マネジメントシステムに生物多様性への視点を取り入れるための支援を行っています。また、生態系サービスを企業が簡易的にはかるための手法の開発にも取り組んでいます。



# 普及啓発 / 資金獲得

## Awareness & Fundraising

鳥の保全、そして環境の保全のためには、ひとりひとりの意識と取り組みが大切です。バードライフは、パートナー団体とともに、環境に関する普及啓発活動にも積極的に携わっています。

**ガラ・ディナー** バードライフ東京では、ガラ・ディナーを東京と関西で、それぞれ年に1回開催しています。活動資金の確保と共に、参加者に保全活動への理解と協力をはたらきかけています。

**サポーター制度** “Friends of BirdLife” として、サポーターを募集しており、絶滅を回避するために支援が必要な鳥へのご寄付を募っています。詳細は、下記のウェブページをご覧ください。

<http://www.birdlife-asia.org/about/support.html>





一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-14-6 TM 水道橋ビル 4 階  
Tel : 03-5213-0461 / Fax : 03-5213-0462  
URL : [www.birdlife-asia.org](http://www.birdlife-asia.org)